

INDEX

日本教育工学会 第27回全国大会の御礼	2
「東日本大震災に関わって」 取組企画報告	2
2011年度 夏の合宿研究会報告	4
2011年度 冬の合宿研究会のご案内 (第二報)	5
「国際学会での発表スキルを磨くー伝わる英語発表ー」	
日本教育工学会研究会 研究会の開催	6
「変動社会における教員養成と教師教育／一般」	
日本教育工学会研究会 研究会の発表募集	8
「地域連携と教育・学習環境／一般」	
日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集	9
「[特集: 大学教育の改善・FD]のご案内 (第三報)」	
ショートレター増刊号論文募集のお知らせ (第一報)	11
第14期第3回理事会議事録	12
第14期第4回理事会・評議会 (合同) 会議・議事録	13
研究奨励賞の推薦依頼 (第一報)	14
新入会員	15

日本教育工学会 第27回全国大会の御礼

副会長 山西潤一（富山大学）

日本教育工学会の第27回全国大会が、09月17日から19日の3日間にわたり首都大学東京南大沢キャンパスで開催されました。1,000名を超える多くの教育工学関係者が全国から集まり、盛会裏のうちに終了することができましたこと心より御礼申し上げます。これもひとえに、会員の皆様はじめ多くの関係者の方々のご支援ご協力のおかげと感謝申し上げます。なかでも、充実した魅力に溢れる大会プログラムを企画していただいた、室田真男大会企画委員長はじめ大会企画委員会の皆様、大会運営の労をとって頂いた、永井正洋大会実行委員長はじめ首都大学東京を核に、近隣から応援していただいた実行委員会の皆様には多大のご尽力をいただきました。ブルーのスタッフTシャツで温かく迎えて頂き、的確な対応とその笑顔に感銘を受けた参加者も多かったことと思います。

今回の大会での新しい試みとして、永野和男会長による「教育工学研究が社会に果たすべき役割」と題した会長講演、会場校である首都大学東京の上野淳副学長には、会場校挨拶とご専門の立場から「東日本大震災と避難所となった学校、その地域社会に果たした役割」と題した特別講演をいただきました。教育工学研究の今後のあり方や震災復興に向けて、学会としてどのような役割が果たせるかに関して考える一助になりました。震災復興に関しては、学会期間中に参加者からの貢献へのアイデア募集や関連のワークショップでも議論されました。今後その具体化に向けての取り組みを期待したいと思います。

シンポジウムでは、「デジタル教科書時代の新たな学びと指導方法」「IRとその概念を援用した情報分析」「グローバルな時代において日本の教育工学は何が出来るか」という現代的教育課題をテーマに登壇者と参加者で議論を深めました。さらに、課題研究、ワークショップ、一般研究、International Session、ポスターセッション、企業展示と、日頃の研究成果や新しい技術が発表され、どの会場でも今後の教育工学研究の発展につながる熱心な議論が展開されました。また、中国教育技術協会代表の李克東華南師範大学教授を招聘し、来年日本で開催される日中教育工学交流フォーラムの打ち合わせや今後の日中研究交流の進展について交流を深めることができました。

最後に、本全国大会を成功裏に終えることができたことをあらためて感謝し、その成果が教育工学のさらなる発展につながることを期待し、御礼の挨拶としたいと思います。

「東日本大震災に関わって」取組企画報告

第27回全国大会では、「学会として、東日本大震災のような危機的状況にどのような対応ができるのか」に関わって、大会期間中に次のような3つの試みがなされた。

まず1つめは、大会企画委員会（室田真男委員長、前迫孝憲副委員長、美馬のゆり副委員長）の発案に基づき、学会期間全体を通じて、東日本大震災に関わる現地調査の写真、新聞記事などをパネルに掲示し、そこに、各会員が、「何を考え、何ができるか」を付箋に書き出し、貼り付け、互いに意識化、意見交換を行うことがなされたことがあげられる。それは、さらに学会懇親会にも引き継がれ、(1) 災害に強い新たな学校を教育工学の視点からのデザイン（教師・ICT・学習空間）、(2) 災害支援事例の共有、(3) その他、で整理されたパネルに、その会場でもコメントの貼り付けや意見交換などが盛んに行われた。



2つめは、学会の全大会において、東日本大震災に関わって、特別講演と会長講演が行われたことがあげられる。特別講演では、上野淳氏（首都大学東京 副学長 建築学）が、実際に東日本大震災の現地で活動された情報に基づき、「東日本大震災と避難所となった学校、その地域社会に対して果たした役割」について話された。そこでは、学校がコミュニティシュエルターとして、どのような役割を果たしていたか、そこでの教師の献身的な活動、統率力について具体的な話がなされた。教師の役割を改めて考えるとともに、そのような危機的な状況に備えていく上で、どのような力量がまた求められてくるのかについても指摘が行われた。また学校がその機能回復をしていく上で、どのようなステップがそこにあり、どのような備えをしていく必要があるかについて、阪神淡路大震災の時の取組とも比べながら、

具体的で詳細な話がなされた。

続いて、会長講演では、永野和男氏（日本教育工学会 会長 聖心女子大学）が、「教育工学研究が社会に果たす役割」を取り上げ、学会が社会とどうつながるか、それを会長はどのように考えているかについて、話がなされた。大きくは（1）今回の大災害から学ぶこと、（2）教育工学とは何か、（3）教育工学の研究対象領域は、（3）教育工学研究は社会とどうかかわるか、（4）今回の災害に対して何ができるか、の4つの柱から話が展開された。その中で、会長も現地を訪れ、そこで得られ、感じられたことなどにも触れながら、教育工学の学問的歩み、特質、その力をどのように発揮していくかが、具体的・実践的に語られた。

最後に3つめは、小柳和喜雄氏（奈良教育大学）と東原義訓氏（信州大学）による企画のワークショップで、「震災や危機的状況への対応を考える」時間が設定されたことがあげられる（理事会での生田孝至氏（新潟大学）の発言を活かして）。

東原義訓氏、西之園晴夫氏およびNPO 学習開発研究所のメンバーから話題提供がなされ、荻宿俊文氏（青山学院大学）のリードの下、会場参加者約25名がグループワークに参加した。そして、それを通じて教育工学として「震災や危機的状況へどのように関わっていけるか」活発な論議と、そのための対応へ向けた企画書作成が行われた。その結果は学会懇親会に引き継がれた。

以上のように、限られた時間の範囲ではあるが、会員及び学会参加者が、東日本大震災のような危機的状況を受けとめ、どのようにこれまでの研究をそこに還元していけるか、社会とつながっていけるかを相互に深く考える機会を本大会は持つことができたといえる。

（文責：小柳和喜雄・美馬のゆり）



2011年度 夏の合宿研究会報告

08月06日(土)から07日(日)にかけて、高知大学教育学部附属教育実践総合センターにおいて、2011年度夏の合宿研究会「若手教師の力量形成を支援する授業研究のデザイン」を開催しました。若手教師の力量形成を支援する立場にあるミドル・リーダー、指導主事等の教育委員会スタッフ、若手教師、大学院生から研究者まで、多様な立場にある27名の参加を得ることができました。

1日目は、豊田充崇企画委員会合宿担当チーフ(和歌山大学)の開会挨拶のあと、木原俊行氏(大阪教育大学)による基調講演「教師の授業力量を高めるための授業研究のデザイン」が行われました。基調講演では、若手教師の授業力量を高めるためには、すべての教師による学び合いを実現させることが重要であるとの知見が示されました。そして、こうした教師間の学び合いを実現させるための方策として、研究授業、事後協議会、外部人材の活用、授業実践の文書化、研究発表会の開催など、いくつかの学校において実践されている取り組みとその工夫について紹介されました。これらを通じて、教師の授業力量を高めるための「専門的な学習共同体」はいかに成立し、発展し得るのかについて、具体的なイメージをもって学ぶことができました。

基調講演に引き続いて、金西計英氏(徳島大学)と金子大輔氏(北星学園大学)の司会のもと、宗円晃司氏・中野博文氏(いの町立伊野南小学校)、松浦智史氏(守口市立橋波小学校)、三枝由佳里氏(大阪市立海老江東小学校)を登壇者としてお迎えし、実践報告「若手教師の力量形成を支援する授業研究の取り組み」がなされました。今年度教職2年目となる宗円氏からは、昨年度の初任者研修や校内研究を取り上げながら、視聴覚機器を活用した授業づくりの取り組みについての報告がなされました。その配置校指導教員をつとめていた中野氏からは、初任教师が自らの関心や意向を生かした授業研究を行うために求められる校内の研修システムや体制づくりについて提案されました。松浦氏からは、研究組織の構築、研究授業を実施する上での工夫、研究だよりの発行のほか、若手教師の力量形成を促す勉強会の開催など、校内の研究主任の立場での工夫について、実践例を豊富にご紹介頂きました。三枝氏からは、大阪市における「教師力向上推進事業(OJT事業)」等について紹介されたほか、現在の教頭という立場から、校内研究のキーパーソンとなるミドル・リーダー育成の必要性について提案されました。これらの報告をもとに、授業研究を充実させるための方策について、全体で協議を重ねました。

1日目の後半と2日目の前半をかけて行われたワークショップでは、「若手教師の力量形成を支援しつつ、すべての教師の学び合いを実現し得る授業研究の企画・運営上の工夫とは？」というテーマのもと、5つのグループにわかれて、まずは、日々の授業研究への関わりや問題意識を交流しました。そこで示された問題意識をもとに、授業研究を行う上での工夫や日頃から実践できる支援のあり方について意見をまとめ、その内容をグループごとに発表し、全体で共有しました。

2日間の締め括りとして、豊田氏による全体総括がなされました。そこでは、これまでの報告や協議について、そのポイントが整理されたほか、教員養成段階において何ができるのか、具体的な取り組みが豊富に紹介されました。最後に、大久保昇企画委員会委員長(内田洋行)より閉会挨拶がなされ、全プログラムが終了しました。

「今回得た知見を2学期からの取り組みに生かしたい」という感想も寄せられるなど、参加者各自の問題意識をもとに、そのさらなる充実を図る方策を互いに考えるための機会の提供という新たな役割を学会として多少なりとも担えたのではないかと思います。今回の合宿研究会を開催するにあたり、多くの方々のご協力を頂戴いたしました。改めて感謝申し上げます。

文責：島田 希(高知大学)



2011年度 冬の合宿研究会のご案内 (第二報)

テーマ : 国際学会での発表スキルを磨く ー伝わる英語発表ー

英語で論文は書けても、口頭発表となると苦手意識を持っている教育工学研究者は多いようです。国際会議・学会における発表がスムーズに進むかどうかは、単に語学力の問題ではなく、プレゼンテーション自体の進め方や代表的な質問への準備などにもかかっています。本合宿研究会では、論文を元に組み立てる発表の構成、外国の研究者に理解してもらいやすいスライド作成、質疑応答で発表の趣旨を理解してもらう方法などについて、単なるノウハウでなく、プレゼンテーションの理論や英語発表の基本的な考え方から学びます。特に、初めて国際学会で発表しようとしている方や、発表のたびに用意した原稿を読んでしまうことに終始してしまったり、ぶっつけ本番の質疑応答で苦勞したりしている研究者の参加を歓迎します。

- 期日 : 2012年02月18日(土) 13:30~19日(日) 12:00
- 会場 : 大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション
(山形市香澄町1-3-15 山形むらささわビル1階)
<http://unicon.kj.yamagata-u.ac.jp/modules/pico/index.php/content0288.html>
JRでお越しの場合 : JR山形駅東口から徒歩2分
航空機をご利用の場合 : 山形空港から山形空港ライナーで山形駅まで約30分
仙台方面から : 仙台駅前から高速バスで約1時間、山交ビル前下車徒歩3分
- 対象 : 国際学会における発表をより効果的に行おうとしている研究者・学生
- 定員 : 30名
- 講師 : 山本涼一 帝京科学大学総合教育センター長 教授
(社)私立大学情報教育協会 英語教育FD/IT活用研究委員会委員長 論文査読委員 他
<http://www.ntu.ac.jp/research/kyoin/sougou/yamamoto.htm>
- 参加費 : 12,000円 (1泊2食付き)
宿泊予定ホテル : ホテルコンフォート (会場に隣接)、懇親会 : ホテルメトロポリタン山形
- プログラム (予定)
02月18日(土) 13:30-18:30
講演 : 「英語プレゼンテーション指導とチップス集(仮題)」
ワークショップ : 英語プレゼンテーションデモンストレーション、発表までの手順、パーツ練習
02月19日(日) 09:00-12:00
講演 : 「アジア人の英語とプレゼンテーション (仮題)」
ワークショップ : (続き) 15分プレゼンテーション体験 : Breathe in, Breathe Out, Prosody 他,
- お申し込み方法
下記ウェブサイトからお申し込みください。申し込み者数が定員に達した場合、キャンセル待ち扱いになることがあります。合宿による研究会の趣旨を踏まえて、宿泊をご希望にならない方は、欠員が発生した場合のみ参加していただきます
(宿泊に関して特別な事情がある方は、ご相談ください)。
申し込みサイト <https://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=18331>
- 開催担当 : 松田岳士 (山形大学)
- 問い合わせ先 : eメール mat@hirc.aoyama.ac.jp

以上

■ 研究会の開催

研究会
2011

● テーマ：変動社会における教員養成と教師教育／一般

- 日 時：2011年10月29日（土）
- 会 場：島根大学 松江キャンパス（教育学部棟）
（〒690-8504 島根県松江市西川津町1060）
- 担 当：深見俊崇（t-fukami@edu.shimane-u.ac.jp）

● プログラム

発表時間：発表1件につき24分（発表19分，質疑5分）

A会場(33教室)，B会場(34教室)，C会場(25教室)

9:55-10:00 諸連絡

10:00-12:05 午前の部

- A1) 理系のための教職テキストの開発に関する研究
星野敦子（十文字学園女子大学），松田稔樹（東京工業大学大学院），
狩野浩二（十文字学園女子大学）
- A2) 学生の教育実践力の育成を意図した大学教員の授業イメージ構造に関する研究
－教科教育担当教員を対象として－
寺嶋浩介（長崎大学）
- A3) チームで推進する授業研究の研修プログラムの事例研究 II
望月紫帆，西之園晴夫（NPO 学習開発研究所），坪井良夫（京都市教育委員会）
- A4) 話し合い活動の質を検証するための回顧テストの活用
遠藤育男，益川弘如（静岡大学大学院）
- A5) イメージマップによる教員志望学生の教職観の把握
深見俊崇（島根大学），高谷哲也（鹿児島大学），森久佳（龍谷大学），
島田希（高知大学），廣瀬真琴（鹿児島大学），宮橋小百合（四国学院大学）
-
- B1) インフォーマル・ラーニングを支援するユビキタス外国語学習環境の構築
藁谷郁美（慶應義塾大学），太田達也（南山大学），マルコ・ラインデル（慶應義塾大学），
倉林修一（慶應義塾大学）
- B2) 教員の ICT の活用頻度及び ICT 活用に関する意識の分析
中尾敦子（内田洋行教育総合研究所），野中陽一（横浜国立大学），高橋純（富山大学），
堀田龍也（玉川大学）
- B3) 大人数授業での Twitter 活用方法の検討とその評価
尾澤重知，森裕生（早稲田大学），江木啓訓（東京農工大学）
- B4) Twitter を導入した授業におけるアクティブユーザの特徴に関する調査
森裕生，鈴木聖司（早稲田大学），江木啓訓（東京農工大学），尾澤重知（早稲田大学）
- B5) 英語学習におけるポッドキャストの補完教材としての有用性
吉川美鈴，川越健夫（株）エアクレーレン
-
- C1) 職場外の勉強会に参加する社会人に関する探索的研究
館野泰一，木村充，関根雅泰（東京大学大学院），中原淳（東京大学）
- C2) 職場における経験学習尺度の開発の試み
木村充，館野泰一，関根雅泰（東京大学大学院），中原淳（東京大学）
- C3) 非母語話者日本語教師の教授不安
西谷まり（一橋大学），松田稔樹（東京工業大学大学院）
- C4) 数学科教育法履修生が書いた指導案と新課程用教科書の分析結果に基づく高校数学 I の指導上の課題
松田稔樹（東京工業大学大学院），益田研一（東京工業大学附属科学技術高校）
- C5) 青少年の携帯電話とインターネットの利用に関する Web 調査と他調査との比較分析
清水康敬（東京工業大学），小泉力一（尚美学園大学），山本朋弘（熊本県教育庁），
横山隆光（岐阜県池田中学校）

13:05-13:10 委員会挨拶・諸連絡

13:10-15:40 午後の部

- A6) eラーニングと実習を組み合わせたブレンド型授業の実践とガイドライン
向後千春（早稲田大学）
- A7) ゴールベースドシナリオに基づく造影検査薬の副作用に関する教育の効果
杉浦真由美（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
- A8) 全学必修科目「シチズンシップ」のグループ演習の運営法
酒井浩二（京都光華女子大学），山本哲也（京都大学），山本嘉一郎（京都光華女子大学）
- A9) 基礎教養教育科目「情報リテラシー」実施のためのサポート体制と授業補助者育成の試み
中村佐里，波多野和彦（江戸川大学）
- A10) 小学校総合的な学習の時間中の個別探究過程時における教師の指導言・評価言研究
川岸幸代（兵庫教育大学大学院），永田智子（兵庫教育大学）
- A11) 遠隔交流学习における教員の授業準備に関する分析
—「超鏡」による大阪と大分の小学校間の実践をもとに—
中澤明子（東京大学），奥林泰一郎，前迫孝憲（大阪大学大学院）

-
- B6) 教育業務の負担を軽減する Word 文書入力支援サイトの開発
竹内俊彦（東京福祉大学）
- B7) 電子棚札の授業管理と運営への応用
眞木幹晃，伊藤翔太，菱田隆彰，坂本将暢，中村栄治（愛知工業大学）
- B8) 学習者のディスカッションの記録による学習状態の検出
網代 剛（産業技術大学院大学），松田稔樹（東京工業大学）
- B9) CMS によるコメント・感想の投稿に対するフィードバックの効果に関する分析
佐藤弘毅（名古屋大学）
- B10) 校務支援システムの機能の必要感と校務の現状改善に関する教員調査の分析
山本朋弘（熊本県教育庁），堀田龍也（玉川大学），
宮田明子，鈴木広則（スズキ教育ソフト株式会社）
- B11) 不登校対応のための連携ネットワークシステムの開発
- スマートフォンを活用した「e カウンセリング」の提案と検討 -
加藤尚吾（東京女子大学），荒巻恵子（東京大学），西村昭治（早稲田大学），
加藤由樹（相模女子大学）

-
- C6) テストレットモデルによる数学テストの問題項目分析
御園真史（島根大学），水町龍一（湘南工科大学）
- C7) 変化の割合を意識してグラフを描こうとする態度を育てる授業の開発
和田隆之介（島根大学大学院），御園真史（島根大学）
- C8) 教育設計における社会・文化的配慮についての動向
鈴木克明，根本淳子（熊本大学大学院）
- C9) 英語学習者による online 教材の評価
平田洋子（北海学園大学）
- C10) デジタルストーリーテリングと PowerPoint の表現の違いが学習意欲に及ぼす影響
笠見直子（桜美林大学）

15:50-17:30 セミナー（C会場）

テーマ：教師教育研究について
講師：小柳和喜雄氏（奈良教育大学）

- 発表時間：当研究会は会員・非会員による討論の場を作ることを目的として開催してきました。討論時間を確保するために7月の研究会より持ち時間24分において質疑応答の時間を5分以上は確保していただいております。よろしくご理解願います。

- 参加費用：参加費は無料です。研究会報告集の年間予約購読代金（3,500 円）を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として 1,000 円を当日受付にてお支払いください。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。尚、年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりません。
- 交通案内：公共交通機関をご利用ください。JR 松江駅バス 1 番乗場「北循環内回り」（所要時間約 15 分，1 時間に 1～2 本運行。）もしくは 2 番乗場「大学・川津」行き（所要時間 20 分，1 時間に 2 本運行。）に乗車し「島根大学前」下車。詳しくは、島根大学 Web サイトの「交通アクセス」をご参照ください [http://www.shimane-u.ac.jp/access/]。
- 昼食案内：研究会当日は大学生協の食堂が営業しております（11:30 から 13:30 まで）。また、大学周辺にも飲食店やコンビニエンスストアがあります。
- 情報交換会のご案内：研究会終了後、松江市内にて情報交換会を開催いたします。詳細につきましては、研究会 Web ページをご覧ください。

研究会の発表募集

テーマ： 地域連携と教育・学習環境／一般

- 日 時：2011 年 12 月 17 日（土）
- 申込締切：2011 年 10 月 16 日（日）

- 会 場：香川大学（担当：林 敏浩）
- 原稿提出：2011 年 11 月 6 日（日）

●募集内容：

近年、多くの大学等高等教育機関で地域連携を長中期の目標にかかげるようになってきました。そして、小中学校、高等学校、自治体、産業界・企業、経済団体、各種文化施設、NPO などと種々の形態で連携した教育プロジェクトが推進されています。また、大学等高等教育機関間の教育連携も進められています。さらに、小中学校、高等学校でも同様な取り組みが増加しております。このような地域連携に関わる各種教育連携の実践事例、組織構築方法、継続的な運用方法、教育・学習環境、基盤技術などについて、広く議論と情報交換を行うために、関連した幅広い分野からの発表を歓迎いたします。また、上記テーマにはこだわらない、教育工学一般における発表も幅広く募集いたします。

●申込方法：研究会 Web ページよりお申し込みください。

●原稿執筆：締切後 1 週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。

●原稿提出：原稿の提出は PDF 形式で、研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚、期限までに提出いただけない場合は、発表取消となりますのでご注意ください。

2011 年度の研究会（2012 年 03 月）のご案内

	申込〆切	原稿提出〆切
3 月 3 日（土） 情報モラル教育の実践／一般	1 月 8 日（日）	1 月 29 日（日）

年間予約購読のお勧め

- 年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで 3,500 円です（当日売りは 1 冊 1,000 円と割高になります）。研究会の受付でも年間購読を受け付けております。

日本教育工学会論文誌 特集号 論文募集

「特集：大学教育の改善・FD」のご案内（第三報）

2008年から大学においてFD（Faculty Development）が義務化を背景として、大学における教育・授業改善の取り組みがクローズアップされるようになってきています。ただ、大学教育やFDに関する研究についてはまだまだ蓄積が少ないのが現状であり、今後、大学教育の改善やFDにおける教育工学の役割がより重要になってくると考えられます。

そこで、本論文特集号では、大学教育の改善やFDに関する研究論文を募集します。また、各大学で実施されている教育改善の実践を教育実践研究論文として投稿されることを期待しております。

本特集号が発行されることによって、大学教育改善・FDに関する教育工学研究の知見がまとめられ、今後の研究と大学教育の高度化に有用になることを目指します。

1. 対象分野

- (1) 大学における授業の改善
- (2) 新しい学習観にもとづく大学授業のデザイン・実践・評価
- (3) FDのための具体的な実践（公開授業、教員研修など）のデザイン・実践・評価
- (4) 学生（TA・SA）を活用した授業改善
- (5) 大学におけるカリキュラムデザイン
- (6) ICTを活用したFD
- (7) 組織的なFDのデザイン・効果
- (8) 大学間ネットワークの役割・効果
- (9) 学問分野別の教育の質保証に関する取り組み
- (10) その他の「大学教育の改善・FD」に関する理論・手法・システム開発・実践研究など

2. 募集論文の種類

通常の記事と同様に、「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します。それぞれの論文種別については、投稿規定をご覧ください。論文の査読は、通常の記事の場合と同じです。ただし、査読は2回限りとし、編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません。「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが、単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんので、ご注意ください。なお、本特集号の対象分野外の論文が投稿された場合は、一般論文として扱うこととなりますので、あらかじめご了承ください。

なお、特集号編集委員会では、本特集号のテーマの特徴から、大学における教育改善・FDに関する実践を「教育実践研究論文」、あるいは「資料」の条件を満たすようにまとめ、積極的に投稿していただくことを期待しています。

3. 論文投稿締め切り日（2012年11月発行予定）

投稿原稿を02月08日までに電子投稿をお願いします。ただし、02月15日までは、論文を改訂することができます。締め切りの延長は行わない方針です。

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2012年02月08日（水）

最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2012年02月15日（水）

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトから電子投稿してください。郵送による投稿は受け付けないことになりました。

5. 問合せ先

日本教育工学会事務局 電子メール：tokushu2012@jset.gr.jp, Tel/Fax：03-5740-9505

6. 特集号編集委員会

吉崎静夫（日本女子大学）一編集長
鈴木克明（熊本大学）一副編集長
村上正行（京都外国語大学）一副編集長
益子典文（岐阜大学）一編集幹事
山田政寛（金沢大学）一編集幹事
赤倉貴子（東京理科大学）
小柳和喜雄（奈良教育大学）
加藤 浩（放送大学）
木原俊行（大阪教育大学）
黒上晴夫（関西大学）
澤本和子（日本女子大学）
鈴木真理子（滋賀大学）
田口真奈（京都大学）
西森年寿（大阪大学）
堀田龍也（玉川大学）
美馬のゆり（公立ほこだて未来大学）
村川雅弘（鳴門教育大学）
山内祐平（東京大学）

ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（第一報）

論文受付締切：2012年04月01日（日）

日本教育工学会論文誌 vol.36,Suppl.は年1回発行されるショートレターの増刊号です。投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

1. ショートレターの内容

- ・全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- ・教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- ・教育システム開発など
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・卒業論文や修士論文等としてまとめた内容、など

なお、ショートレターに掲載された内容を、研究的に発展させまとめて、論文採録の条件を満たすと思われる内容は、学会論文誌に投稿することができます。

2. ショートレターの査読日程

(2012年度)：

- 4月 担当及び査読者の指名
- 5月 編集委員会で査読進捗状況の確認
- 7月 編集委員会で採録、返戻の第1回決定
- 9月 編集委員会で採録、返戻の第2回決定
- 10月 最終原稿の提出
- 11月 著者校正
- 12月 ショートレター増刊号発行予定

3. ショートレターの採録条件

- ・ショートレターは、刷り上がり4ページ厳守です。
- ・ショートレターでは、筆頭著者(ファースト・オーサー)は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等を行うことが必要です。なお、各会員はショートレターを年1編に限り投稿できます。
- ・2012年12月に発刊の予定です。

4. 論文投稿の仕方

原稿は、「投稿規定」と「原稿執筆の手引」(<http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html>)に従って執筆し、学会ホームページの会員専用Webサイトより電子投稿して下さい。会員のIDとパスワードが必要です。投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています。

5. 問い合わせ先： 日本教育工学会事務局 電子メール：short@jset.gr.jp Tel/Fax：03-5740-9505

第14期第3回理事会議事録

日時：2011年09月10日（土） 14:40～15:50

場所：聖心女子大学3号館4階341番教室

出席：

理事 永野和男会長，山西潤一副会長，永岡慶三副会長，赤倉貴子，赤堀侃司，大久保昇，小柳和喜雄，加藤 浩，清水康敬，鈴木克明，中原 淳，中山 実，南部昌敏，野嶋栄一郎，東原義訓，前迫孝憲，美馬のゆり，室田真男，矢野米雄，山内祐平，吉崎静夫

監事 近藤勲

1. 第14期第2回の理事会議事録を資料1のとおり承認した。
2. 会員の移動について承認した。
 - (1)新入会員 76名(正会員:29名，学生会員:38名，准会員:9名)
 - (2)退会会員 2名(正会員:1名，准会員:1名)
 - (3)種別変更 17名(正会員へ4名，学生会員へ13名)合計 2,681名(正会員:2,050名，准会員:367名，学生会員:238名，維持会員:20名，名誉会員:6名)
3. 各種委員会報告について
 - (1).編集委員会
清水編集長から資料3に基づいて以下の説明があり，これらを承認した。
 - ・論文誌(一般号，特集号，ショートレター，英文誌)の編集進捗状況について
 - ・修正論文の投稿期限延長要求に対する処理について
 - (2).研究会委員会
鈴木理事から，10月の研究会への応募状況について報告があった。
 - (3).企画委員会
大久保委員長から，8月に開催された夏の合宿開催報告があった。
冬の合宿(山形大学)の開催計画が報告された。
 - (4).大会企画委員会
室田委員長から資料4に基づいて大会企画委員の交替について審議依頼があり，これを承認した。
また，今年度大会での海外からの講師招聘は中止されたことが報告された。
資料4で，全国大会での託児所設置について，会員のアンケートを実施したことについて報告があった。
 - (5).顕彰委員会
赤倉委員長から，資料5の論文賞受賞の資料について説明があった。
 - (6).国際交流・渉外
赤堀委員から，資料に基づいて中国教育技術協会代表者の第27回全国大会への招聘について説明があった。
また，2012年06月09～11日に第4回日中交流会を奈良教育大学で開催する予定である。なお，経費については，学会の特別予算で実施することが確認された。
 - (7).広報委員会
南部委員長から，資料6のニューズレター台割り案が示され，原稿依頼先が確認された。
 - (8).総務
 - ・情報学教育関連学会等協議会の発足の提案があり，本会として協力することが会長から提案され，これを承認した。
 - ・名誉会員と理事就任について，会員から指摘があったことが会長から報告があり，定款に沿って名誉会員の位置づけが説明され，これを承認した。
すなわち，名誉会員は選挙権はあるが，被選挙権はない。ただし，現在の名誉会員の理事は，次期選挙の候補者になることはできない。
 - ・会長から，定款にある編集長については，編集委員会担当理事であり，現編集長の任期末をもって，編集長を割愛することが確認された。また，編集委員会は委員会組織であるので，他の委員会と同様に扱う旨説明があった。
5. その他
 - (1). 協賛依頼を承認した。
 - ・シンポジウム「モバイル12」協賛のお願い（モバイル学会より）

- ・高校教科「情報」シンポジウム 2011 秋ジョーシン 2011 秋（情報処理学会初等中等情報教育委員会より）
- ・日本情報科教育学会第 4 回全国大会（日本情報科教育学会より）
- (2). 後援依頼を承認した.
 - ・第 22 回教育システム若手の会に対する後援のお願い（教育システム若手の会より）
- (3). 学会への郵送物を確認した.
- (4). 今後の理事会
第 14 期第 4 回理事・評議員会（合同）2011 年 09 月 18 日首都大学東京

以上

第14期第4回理事会・評議会(合同)会議・議事録

日時：2011 年 09 月 18 日（日） 13:00～14:00

場所：首都大学東京 南大沢キャンパス 1 号館 2 階 203 号室

出席：

理事 永野和男会長，山西潤一副会長，永岡慶三副会長，赤倉貴子，植野真臣，大久保昇，
小柳和喜雄，久保田賢一，清水康敬，鈴木克明，中山 実，南部昌敏，野嶋栄一郎，東原義訓，
前迫孝憲，美馬のゆり，村川雅弘，室田真男，矢野米雄，山内祐平，吉崎静夫
評議員 稲垣 忠，今井亜湖，木原俊行，黒上晴夫，向後千春，高橋 純，永田智子，西森年寿，
野中陽一，平嶋 宗，堀田龍也，村上正行，森田裕介，柳沢昌義
監事 生田孝至，近藤 勲
(合計 37 名)

1. 第 14 期第 3 回の理事会議事録を資料 1 のとおり承認した.
2. 各種委員会報告について
 - (1).大会企画委員会
室田委員長から，大会運営の進捗状況について，報告があった。
また，美馬理事から学会としての震災対応について掲示している報告があった.
 - (2).国際交流・渉外
野嶋理事から，中国教育技術協会から 2 名が大会に参加されていることが報告された。
また，第 4 回日中交流プログラム，来年度の交流事業についての進捗が報告された.
 - (3).FD 特別委員会
村川委員長から，今年度の研修会の企画について報告があった.
 - (4).企画委員会
大久保委員長から，冬の合宿(山形大学)への参加が呼びかけられた.
 - (8).総務
 - ・学会定款に関するワーキンググループの設置と委員について，永野会長から提案がありこれを承認した.
 - ・「情報学教育関連学会等協議会」の世話人選出について
永野会長から選出提案があり，これを承認した.
 - ・教育工学選書の進行状況について
永野会長から選書の編集進捗状況について，報告があった.
3. 学会の活動について
 - ・評議員，監事から学会活動について意見があった.
 - ・総会時のシンポジウム開催形式について，話し合った.
 - ・赤倉顕彰委員長から，研究奨励賞の推薦依頼があった.
4. 今後の理事会
第 14 期第 5 回理事会 2011 年 11 月 19 日 聖心女子大学

以上

研究奨励賞の推薦依頼（第一報）

研究奨励賞候補者をご推薦ください

第27回全国大会（首都大学東京）の研究発表者の中から、研究奨励賞の候補者を下記の要領でご推薦下さい。発表をお聞きになっていない場合でも、論文集をご参考をお願い申し上げます。

選考の基準

1. 選考対象者は、本学会の会員であって、受賞時に40歳を越えていないこと。ただし、本学会入会時から5年を経過していない場合は考慮する。
2. 選考時点から遡って最後の年次大会での正式の研究発表登壇者であること。
3. 既に研究奨励賞を受賞している者でないこと。
4. 対象者の過去の研究業績を尊重すること。

注：研究奨励賞（1985年10月31日理事会申し合わせ）

「研究奨励賞は、教育学および関連領域に関する学問の奨励のため、有為と認められる新進の研究者に贈呈する。この奨励賞を受ける者は、本学会会員であり且つ研究大会において講演を行った中から、優秀な論文を発表した者から選定する。」

なお、理事・評議員・大会役員・座長担当者の方は率先してご推薦下さいますようお願い申し上げます。

★締め切りは、12月31日（土）とさせていただきます。

キリトリ線

第27回 研究奨励賞候補者推薦用紙

候補者氏名	講演番号	推薦者

日本教育工学会

Tel/Fax: 03-5740-9505

E-mail: office@jset.gr.jp

新入会員

(2011年07月13日～2011年09月05日) 76名 (正会員：29名, 学生会員：38名, 准会員：9名)

■正会員 29名

高村秀史 (日本福祉大学)
市橋 貢
宗我部義則 (お茶の水女子大学
附属中学校)
中野博幸 (上越教育大学)
鈴木 靖 (法政大学)
清水公男
田村 傑 (早稲田大学)
山崎 進 (北九州市立大学)
萩嶺直孝 (熊本大学附属中学校)
入澤 学 (敦賀短期大学)
松井順子 (明海大学)
近藤秀樹 (九州工業大学)
野口靖浩 (静岡大学)
狩野尚史 (株式会社HRインス
テテュート 東京工業大学院)
土屋善裕 (長野工業高等学校)
平野浩幸 (NHKライツ・アー
カイブスセンター)
宮本聖二 (NHKライツ・アー
カイブスセンター)
志子田有光 (東北学院大学)
讃岐 勝 (筑波大学大学院)
板倉佑典
清水雅之 (上越教育大学)
岩居弘樹 (大阪大学)
川人弘幸 (神戸市立青陽西養護
学校)
佐伯 勇 (甲南女子大学)
太田達也 (南山大学)
田崎博久 (北海道教育大学附属
釧路小学校)

石崎明男 (東京都立産業技術高
等専門学校)

三波千穂美 (筑波大学)

楫取和明 (水産大学校)

■学生会員 38名

国崎陽介 (広島国際大学)
下村晃平 (広島国際大学)
森山裕貴 (広島国際大学)
長田和浩 (兵庫教育大学大学院)
勝田浩次 (関西大学大学院)
中村勇太 (広島国際大学)
浦中裕也 (山口大学大学院)
齋藤祐子 (関西大学大学院)
内藤真矢 (拓殖大学)
川岸幸代 (兵庫教育大学大学院)
近藤麻紀子 (千葉大学)
張 セイ (東京学芸大学大学院)
井上直樹 (東京学芸大学)
菅原遼介 (岩手県立大学)
薄井洋子 (東北大学大学院)
野崎 要 (東京学芸大学大学院)
深川愛子 (千葉大学大学院)
小池翔太 (千葉大学)
舘 裕介 (信州大学大学院)
升田聡美 (東京理科大学大学院)
平野雅人 (東京理科大学大学院)
奥津翔太 (岩手県立大学)
外山理沙子 (慶應義塾大学大学
院)
壺井みづか (日本女子大学大学
院)
安井晃二 (茨城大学)

吉野 翔 (上越教育大学大学院)

本郷友章 (東京理科大学大学院)

鈴木知誉子 (早稲田大学)

大井はるえ (埼玉大学大学院)

豊田 香 (東京大学大学院)

松嶋和夫 (創価大学大学院)

角谷充彦 (名古屋大学)

吉田不二彦 (兵庫教育大学大学
院)

石川尚季 (龍谷大学大学院)

渡邊浩之 (熊本大学大学院)

深野暁雄 (東京工業大学)

早川克美 (東京大学大学院)

庄ゆかり (広島大学大学院)

■准会員 9名

折茂慎一郎 (日野市立平山小学
校)
柘井由紀子 (日野市立平山小学
校)
石田百合子
小林史典 (日野市立平山小学校)
小塚忠史 (日野市立平山小学校)
大谷つかさ (京都外国語大学)
千頭一郎 (県立鹿屋高等学校)
外山世志之 (都立光明特別支援
学校)
床鍋佳枝 (株式会社ディーエヌ
エー)

◎学会日誌

- ・2011年10月29日(土)
研究会「変動社会における教員養成と教師教育／一般」
(島根大学)
- ・2011年12月17日(土)
研究会「地域連携と教育・学習環境／一般」(香川大学)
- ・2012年02月18日(土)～19日(日)
冬の合宿研究会
「国際学会での発表スキルを磨くー伝わる英語発表ー」
(大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション)
- ・2012年03月03日(土)
研究会「情報モラル教育の実践／一般」(山口大学)

◎国際会議の案内

2011年

WALS 2011

<http://www.wals2011.com/>
(11/26-28, Tokyo, Japan)

ICCE 2011

<http://www.nectec.or.th/icce2011/>
(11/28-12/02, Chiang Mai, Thailand)

2012年

SITE 2012

<http://site.aace.org/conf/>
(03/05-09, Austin, TX, USA)

IEEE WMUTE/DIGITEL 2012

<http://wmute2012.info>
(03/27-30, Takamatsu, Kagawa, Japan)

ED-MEDIA 2012

<http://aace.org/conf/edmedia/>
(06/26-29, Denver, CO, USA)

CollabTech2012

<http://www.collabtech.org/>
(08/27-29, Sapporo, Hokkaido, Japan)

お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2011@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催について
のお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

編集長：清水 康敬(東京工業大学)
担当副会長：永岡 慶三(早稲田大学)
広報委員長：南部 昌敏(上越教育大学)
副委員長：矢野 米雄(徳島大学)
監事：高橋 純(富山大学)
委員：永田 智子(兵庫教育大学)
E-mail : kouhou@jset.gr.jp

発行所●

日本教育工学会事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル
TEL&FAX 03-5740-9505
E-mail : office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp>
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター
No. 182
2011年10月18日

発行人●会長 永野和男(聖心女子大学)